



## 【第2弾】サッカー協会と 部活動派遣費問題を考える 地域円卓会議

強豪校の派遣費支援って本当に必要？  
派遣常連校保護者と考える

### 実施報告書

日時： 2021年12月5日(日) 13:30-16:10 (受付開始 13:00～)  
場所： 沖縄県体協スポーツ会館会議室 (沖縄県那覇市奥武山町 51-2)  
共催： 公益財団法人みらいファンド沖縄、一般社団法人沖縄県サッカー協会  
協力： NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成  
NPO 法人まちなか研究所わくわく  
公益財団法人みらいファンド沖縄

# ACTIVITY REPORT

## 【報告】【第2弾】サッカー協会と部活動派遣費問題を考える地域円卓会議



- 日時：2021年12月5日（日）13:30-16:10
- 場所：沖縄県体協スポーツ会館会議室
- 着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 来場者数：2名（企業、教育機関）
- 主催：公益財団法人みらいファンド沖縄  
一般社団法人沖縄県サッカー協会
- 協力：NPO 法人まちなか研究所わくわく

### 論点提供 金城 充（一般社団法人 沖縄県サッカー協会）

#### 強豪校の派遣費支援って本当に必要？ 派遣常連校保護者と考える

公益財団法人みらいファンド沖縄と、一般社団法人沖縄県サッカー協会では、「沖縄・離島の子ども派遣基金」と称した、部活動派遣旅費に対する助成事業を行っています。今回は派遣常連校の保護者から派遣旅費のエピソードを確認しながら、強豪校の派遣旅費を地域で支援する意義を、子どもの権利を始め様々な視点から確認議論します。

#### センターメンバー



金城 充  
一般社団法人  
沖縄県  
サッカー協会



宮城 淳也  
一般社団法人  
沖縄県サッカー  
協会 常務理事



山川 太  
那覇西高校  
サッカー部  
2020年度  
父母会長



平安山 良太  
那覇西高校  
サッカー部 監督



宮里 篤  
西原高校  
サッカー部  
副顧問



横江 崇  
弁護士 美ら島  
法律事務所



真栄城 潤一  
フリーランス  
ライター、  
HUB 沖縄

## ➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

### 事実の提供

- 2020年度から、みらいファンド沖縄と沖縄県サッカー協会で、休眠預金活用した部活派遣費補助事業を行っている
  - ・ 2020年度は5件110万円の補助を行った。2020年度は新型コロナウイルスの影響でなくなった大会もあり、件数も減少した
  - ・ 2021年度は12月時点で、14件320万円の補助を行なった
- 沖縄は離島県ということで、特に離島地域において、これまでも沖縄県サッカー協会に「県外派遣も含めて派遣費補助のプログラムが無いか」という問い合わせがあった
- 離島では、沖縄県大会も派遣の一つだが、県大会に出るためだけでは資金造成はしていない。助成メニューもあまりない。県大会で優勝すると資金造成を行う
- 先島のチームだと、県大会に出場するためにも1回の大会で1試合あたり約2~3万円の自己負担がある。2回戦以上まで勝ち抜くと、負担が2倍、3倍と増えていく
- 強豪校においては、選手権大会で勝ち進むと2、3週間県外に居る必要があり、一家庭あたり平均15万円かかる
- 日本サッカー協会の補助は全国大会のみで、県大会優勝後、九州大会に出場する場合は補助がないため、基本的に4~5万円を自己負担する
- 選手として選ばれても、家庭の経済的な事情で辞退する生徒もいる
- 沖縄県サッカー協会としても、派遣費に関してなんとかしたいという気持ちはあるが、男子、女子、幼稚園生からシニアなど、様々なカテゴリーがあり、その全てに補助することは難しい
- 国体などに出場する場合、選手を連れて移動する指導者や審判員、審判員を指導するインストラクターが必要になる。指導者や審判員がいないと大会自体できなくなる。沖縄県サッカー協会は最低限必要なこととして、指導者や審判員の資格取得や資格の更新に向けた補助を行っている
- 沖縄県サッカー協会では、宮古、八重山地域への配慮として、各種別の全ての大会を本島でやるのではなく、年に1回、離島開催も行い、ホーム&アウェイという形で費用負担を軽減してバランスをとっている
- サッカー界は、日本サッカー協会をトップに、地域協会、県協会という形で、ピラミッド型になっている。収入源は、登録費と補助金が原資となっている。大会の運営は参加費でまかなうように努めている
- 西原高校サッカー部は、全国高等学校サッカー選手権大会沖縄県大会で31年ぶりに優勝した。選手権大会のために県外へ行く人数は、登録選手が30名、マネージャー、コーチ、スタッフが10名計40名を予定している
  - ・ 登録外選手が70~80名おり、帯同する保護者の数は未定だが、全体で120~130名ほどの規模になる
  - ・ 登録外選手の旅費の見積もり金額は約10万円で、そのうち4万円は学校からの補助や資金造成などから支給され、残りの6万円が自己負担額となる
- 那覇西高校のサッカー部は、136名ほど部員がいる
- 主な全国大会として、高校総体と選手権大会の2つがある
  - ・ 3年前の高校総体は地元開催で、宿泊料はかからなかった
  - ・ 宿泊先の調整など優勝を決めたところから動き始める
  - ・ 2020年の選手権大会では、千葉会場、東京会場、埼玉会場、神奈川会場の4つのブロックに分けて開催された
  - ・ 抽選会が終わるまで会場が分からないため、会場の都県ごとにホテルの仮予約を行っている。そのため、抽選会までホテルの本予約が取れない
  - ・ 前任の顧問など、他校に勤務している全国大会派遣の経験がある先生たちの情報をもとに、旅行手配を行っている。『チーム沖縄』として連携している
  - ・ 県外へ行くメンバーの調整や、選手、応援団の補助の申請や調整、費用の調整などを行い、旅行会社と詰めて旅程を確定させている
  - ・ 登録外の選手は会場に来て応援するだけではなく、他校と練習試合も行い時間を有効活用しているため、2020年は10名の職員(サッカー部に関係のない先生方も含む)が帯同した
- 保護者は応援に徹しており、帯同は行っていない。



- 全国のレベルを知ることや気候に慣れるという目的で、全国大会へ行く前に県外の強いチームと練習試合を行うなど、県外合宿を実施している
- 那覇西高校の活動だけで年間に 4~5 回県外へ行く機会があり、加えてトレセンの活動があり、計 10 回ほど県外へ行く
  - ・ 子どもたちだけで約 50 万円の費用がかかる
  - ・ 保護者は全額自己負担で 2~3 回同伴するため、子どもが複数いると 100 万近く支出する家庭があることも想定される
- 高校1年生の頃から試合にかかわるような選手や保護者のなかには、プロを意識している方もいる
- 西原高校はバレーボールやマーチングバンドなど、全国出場する部活動があり、毎年主に T シャツ、タオル、お米などを販売して資金造成を行っている
  - ・ T シャツは 2,000 円で販売し、500 円から 1,000 円程度を資金造成に充てている
  - ・ T シャツが主な収入源で、T シャツを着けることで選手たちも励みにもなっている
  - ・ 顧問などは教職員に対して、保護者会は地域や知人に対して窓口となり、販売を行っている
- 西原高校は 31 年ぶりの優勝でニュース性があり、寄附が集まりやすいが、那覇西高校だと「またか」という声があり、強豪校といえども寄附は集まりにくい現状がある
- 那覇西高校サッカー部の父母会は、年度初めの総会や大会前の栄養会を開催したり、資金造成や部費など資金管理を行ったりしている
  - ・ 部員約 136 名に対して、3 年生の保護者 20~30 名の父母会員を中心に活動している
  - ・ 2020 年は、選手権大会で優勝した翌週に父母会を開き、目標金額を話し合った
  - ・ 資金造成では 300 万円を目標とし、タオルや商品券の販売を行った。加えて、クラウドファンディングを実施した
- 商品券の収入が 500 円ほど、タオルの収入が 700 円ほどで、商品券の販売が主力
- 商品券の販売方法は、一度全て保護者で買い取り、その後知人や友人、職場に販売して資金回収を行っている
- 児童の権利に関する条約が発効され、沖縄県でも「沖縄県子どもの権利を尊重し、虐待から守る社会づくり条例」が制定された。「能力が十分に発揮されること」がキーワードになっている
- 沖縄は小学校から中学校、中学校から高校に進学するタイミングで、年間 40~50 名のサッカー人材が県外に流出する「輸出県」となっている
- 強豪校でも派遣費の 8 割は保護者が負担しているため、保護者の覚悟にあまえている部分がある
- 関東圏と比較すると、選手の強化にかかるお金の額に大きな違いがある
- 県内に選手をとどめておけない現状がある。強化の機会について、県内の強豪校でも、権利の保障ができていない
- 機会が均等であることが権利の保障。沖縄では強豪校以外に派遣や強化の機会の保障が少なく、沖縄とそうでないところの格差が大きい
- 資金造成は、支援を呼びかけるためにパワーがかかり、目に見えない負担があるが、子どもが全国で活躍する姿を見たいという思いで行っている
- 3 月には「沖縄県高校招待サッカー」という大会があり、全国からトップチームを沖縄に呼び込んでいる。プレーを間近で見られることや、対戦できることが強化や体験の保障につながっている
- 県外の強豪校と比較して、県内の高校は、顧問の教職員の転勤のサイクルが早くスタッフ確保が難しいことや、グラウンドが他の部活動と兼用などハード面の課題もある

## 視点の提供

- 沖縄は、九州大会へ行くためには飛行機を利用しないと行けないが、福岡県だと飛行機ではなく、車で行ける。その点で、九州大会に参加するためにかかる費用の負担額も変わることから、派遣費はそもそもなぜ自己負担か疑問を抱いた
- 派遣費は、受益者負担の原理として自己負担になっているが、沖縄県サッカー協会としてもサポートをしていきたい
- 派遣で県外へ行くことで、子どもたちは大きく変化する
  - ・ 県外の強いチームと対戦することで試合に向かう意識が変わってくる
  - ・ 高校生になると家庭の支出に対する想像もできるようになり、親や先生方に対して「行かせてくれている」という感謝の気持ちを持つようになる
  - ・ 県外で自ら洗濯を行う経験をすることにより、部活動後も自ら洗濯機を回すなど、徐々に自立するようになる

- 高校時代、アメリカンフットボール部に所属しており、2年連続関東大会優勝して強豪校で練習試合を行った経験もあるが、日帰りでも行けるなど、沖縄のチームが支出する金額と大きく異なり、沖縄のおかれた状況・負担の大きさを感じる
- 子どもたちが持っている成長するための権利やそれぞれの機会が奪われてしまうことが問題である。全ての子どもの権利機会の保障が必要
- 強豪校、それ以外の学校、及びその他の種目に関して、勝つため、強くなるため、どこまで機会を保障するかが課題となる
- 子どもたちが成長する機会を保障するときに、「部活動は好きだからやっているのでしょ」という言葉で片付けられがちであり、公平性の視点が保障の範囲を難しくする
- 子どもたちの能力や力を伸ばすために必要な活動であれば、それは権利保障にあたる。財源や施策の優先順位、費用対効果の課題があるなか、思い切った予算を組めるかどうか
- 県内に強豪校があることで県外への人材流出を防げるのではないかと。また、県内にも選択肢がある上で、県外に進学するという選択肢があるのは良い
- 子どもたちを支えることは地域の財産を生み出すことになる。支えられた子どもたちが地域に還元できる姿を更に示せると良い
- 県内でプロの選手になれるという姿を見せられると子どもに夢と希望を与えることができる
- そもそも強豪校の定義とは何かという疑問もある
- 地域から応援されるチームになるためには、地域に貢献できる活動をするなど、社会と関わるのが重要
- 地域の下年代の子どもたちから憧れられるようなチームをつくるのが大切ではないか
- 強い学校が地域にある意義とは、下の世代が入学してチームに入ることを目指すことに加えて、子どもの成長を近くで見守れることにある
- 派遣費の格差をなくすために、誰もが安心して使えるセーフティネットを整備していくことが重要
- 行政による派遣費の補助額は、市町村により大きく異なる。航空運賃に関しては、沖縄県が施策としてまとめて補助することで、あきらめる子は減るのではないかと
- 行政には財源の問題があるため、足りない分は民間が参画する必要がある
- 県として強くなるためには、声を拾いあげて県でプログラムを組み、各市町村が強豪校でなくても補助できる仕組みをつくるのが重要ではないか
- 強豪校だけでなく、自分の学校も補助を受けられるという仕組みをつくれれば、派遣費補助の問題も自分事として理解が広がるのではないかと
- 派遣費補助の配分のポイントは、公平性、優先順位、費用対効果、理解への努力が必要となる。更に、行政と民間が協力して取り組むことが拡充していく上で必要となるのではないかと

## ➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) 沖縄県外と比べ、移動コストについて格差がある。負担軽減を行政施策に対して議論、PRし、セーフティネットを構築していく
- 2) 沖縄県内においても、子供たちが国内トップレベルを目指す権利を保障する。また、人材流出を防ぐ事にもつながる。そのために、モデル地域、モデル校があるべきではないか。あるいは、モデル地域、モデル校以外においても、強くなるための派遣費が保障されるべき
- 3) 子どもたちの部活体験をより良くするためには、本番だけでなく練習試合を含めた「場数」が重要。特定校だけでなく、様々な地域でその環境が整備されることは子どもの権利から見ても大切な論点である。またその財源は民間の参画でも補う必要がある
- 4) 派遣に関する資金造成や手配等のノウハウを、指導者や保護者同士のネットワークで共有し、沖縄県全体で支える体制をつくる

## ■参加者によるサブセッション

### 強豪校の派遣費支援って本当に必要？ 派遣常連校保護者と考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

支える意味は？

- ・まずは地域の財産になることを支援する必要
- ・地域への還元具合わかると good
- ・夢と希望を与える
- ・選手の輸出県になっている県内にとどめたい
- ・上の層（強豪）←ほこりになる  
すその広げる（楽しめればレクリエーション）

ボトムどっちも大事

→クラブチームでの活動はできる

上手い子はトレセンとか入ると

2回1で県外…

→トップレベルにふれる機会ない

→県外だとリーグ戦

体験+スカウトの場

⇒県内では強豪でも機会の保障されていない

③

- ・地域とのつながり
- ・スポーツで夢を持つ  
身近に感じる
- ・強くなるにはお金かかる
- ・強いと下の年代の子のあこがれ
- ・選手が県外に流出
- ・学校も地域貢献
- ・応援されるチーム

②

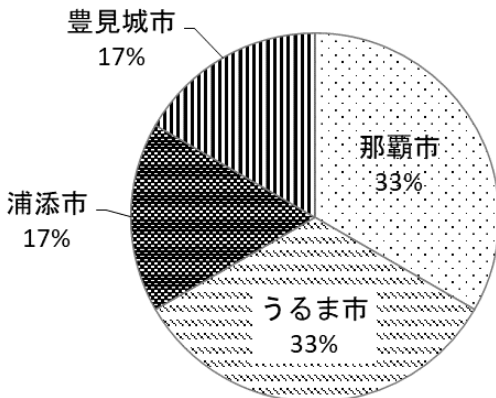
- ・「またな？」という、集まりやすさ資金の
- ・ニュース性に左右される
- ・保護者の覚悟に“甘え”ている
- ・強豪ではなくとも県外遠征は行きたい
- ・強豪があるからこそ目指す子どもたちも出てくる
- ・そもそも“強豪校”って？
- ・8割以上は保護者の負担、格差はある

## 【第2弾】サッカー協会と部活動派遣費問題を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

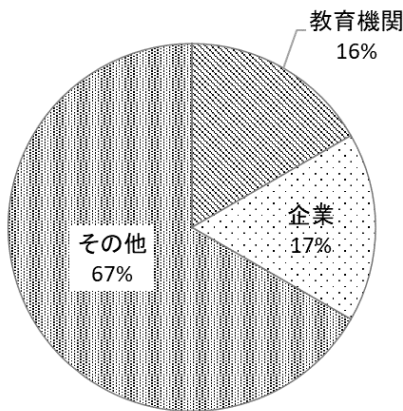
### ◆概要

- ・日時：2021年12月5日（火）13:30-16:10
- ・場所：沖縄県体協スポーツ会館会議室
- ・着席者：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：2名（着席者含むアンケート対象者9名）  
（アンケート回収6名、回収率66%）

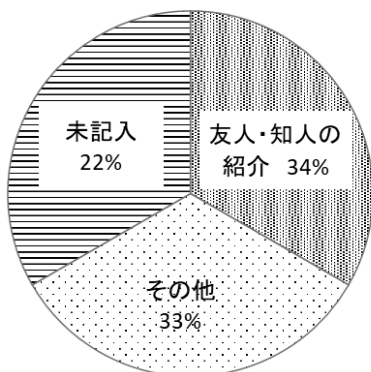
### 1. どちらから？



### 2. 所属



### 3. 円卓会議はどのように知ったか



### 4. 満足度

平均：4.8（5点中）

5.満足	4.概ね満足	3.普通	2.あまり満足していない	1.不満足
5名	1名	0名	0名	0名

### 5. 満足度の理由

#### （5. 満足）

- ・派遣費について議論する中で、沖縄がかかえている課題について考える機会となりました。
- ・どこまでの機会を保障すべきか問題。今まで遠征費負担は覚悟していたので、地域で支えてもらえることができれば子供たちの可能性は更に広がる。
- ・いろいろな話が聞けて良かった。
- ・それぞれの視点での課題や、工夫が聞けて良かった。
- ・この内容の話は、初めてだったのでいい機会となりました。何かの変化につながればいいと思います。

#### （4. 概ね満足）

- ・派遣常連校・その保護者という当事者の話を聞いたのは良かった。現場スペースに視点を設定することの大事さを痛感した。

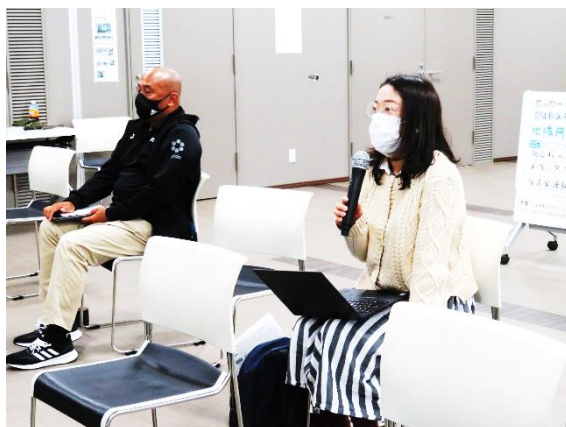
### 6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・子供たち、夢や希望を持たせるためにも、派遣費の補助が必要だと思いました。
- ・補助してもらうためには、応援される人（チーム）になる必要がある。地域に密着した活動が重要
- ・権利と機会の抽象的な部分と現場の話をつなげられた良い機会だった。まだまだ整理は必要ではあるが、多くの論点が出たことで課題の立体化はできていたのかと思う。「強豪校」の在り方と機会の「平等性」は非常に悩ましいし、財源と行政が何を担うかのボーダーは引き続き探る必要がある。

- ・ 優勝チームに補助ではなく、強化指定校に補助する事で親や子供の選択が増えるのでそのほうがいい
- ・ 強化指定校と強豪校、どんな形でもサポートしてくれたら沖縄の活性化にもつながると思います。
- ・ 子供の機会の保証は大事ですね 子供が夢を見ることを支えるのは大人の義務 地域でその成長を守れる環境づくりが必要だと思います。



(写真) 会場の様子



# サッカー協会と \*2弾 2021.12.5(日) 部活動派遣費問題を考える 13:30~16:10 ④ 沖縄県体協スポーツ会館 会議室

## 地域用卓会議

**テーマ**

強豪校の派遣費支援って  
本当に必要？  
派遣常連校保護者と考える

地域の困窮を  
社会課題として  
共有 共有の場

**共催** 公益財団法人みらいファンド沖縄沖、一般社団法人沖縄県サッカー協会  
**協力** NPO法人 まちなか研究所 わくわく

## 論点提供

**金城亮** 沖縄県サッカー協会

休眠資金活用

島国沖縄の子でもたちに夢をあきらめさせない

2020	5件	110万	) 派遣費補助実績
2021	14件	320万	

これまでもハケンヒ補助の向いあわせあった

- 県大会へ出場することには補助ない(離島)
- 優勝した資金造成
- 派遣ってなぜ自己負担？
- 先島のチーム 約2~3万円の自己負担 (県大会出場)
- 県大会優勝 → 九州大会 (4~5万円) 自己負担

強豪校 (一家庭、平均15万円かかる(全国))  
 選手といえはれても、家庭の事情で辞退する子も

**宮城淳也** 沖縄県サッカー協会

男子 女子 シニア  
 いろいろカテゴリあり

カテゴリ-99あり、  
 その全ての補助はむずかしい

審判員・指導者・インストラクター  
 受益者負担の原理  
 大会開催と離島開催も行う



② **宮里篤** 人  
 西原高校サッカー部 副顧問

**31年ぶりの優勝**

30名 (登録選手)  
 10名 (マネージャーなど)  
 70~80名 (登録外選手) } 120~130名  
 + 保着者

保着者 → これから

登録外選手 → 6万円 自己負担  
 4万円 補助・資金造成など

プレー  
 マチングバンド など } 毎年全国出場  
 資金造成 行っている

Tシャツ・タオル・お米 など

2000円 保着者会 — 地域・知人  
 500~1000円 教職員  
 (5万円おぼせ)

③ **平安山良太** 人  
 那覇西高校サッカー部 部長 136名

高校総体と選手権 (年2つの大きな大会)

優勝 → 抽選会 → 会場決まる

会場ごとの手配(予約) → 経験ある先生がほかからの情報をもとに(学校にて)のチーム沖縄にて

行くメンバーの調整  
 選手 応援  
 木助の申請・調整  
 費用の調整 確定

事前の県外合宿  
 強いの試合 弱いの試合  
 強いの試合 弱いの試合

帯同  
 去年10名の職員が帯同  
 (父母保着者) は入らない

旅行会社にて  
 お金の負担への強い相手と試合  
 県外へ行くことで選手は多々のことを感じている。  
 ひとまわりふたまわり大きくなる。 2-3組

④ **山川大** 人  
 那覇西高校 2020年度父母会長

総会 栄養会 資金造成 部費の資金管理

選手権優勝の翌週に父母会 部員 130名

タオル・商品券 300万円目標  
 クラウドファンディング 20~30名の父母会員を中心に

全部員保着者で買っていく → 知人友人・職場  
 4~5回 + トレセン → 10回くらい県外へ 50万円くらいかかっている  
 + 保着者 2~3回 (金額自己負担)

子どもたちの変化

- 試合に向かう意識
- 自立 (せんたくとか)
- 感謝の気持ち (行かせてくれる)

70%を認識している子・保着者も一部いる

④ **横江崇** 人  
 美ら島法律事務所 弁護士

3x3カンフートボールを高校  
 沖縄のおかれた状況・負担の大きさを感じた

- 児童の権利に関する条約
- 沖縄県子どもの権利と尊重し虐待から守る
- 能力が十分に発揮されること

社会での条約

子どもの権利  
 機会の保障

勝つため、強くなるため、そこをどこまで保障するか。

全ての子どもたちに、それぞれの子どもたちが成長発達するために必要を機会を保障する

# 真栄城 週一

公平性のしやー  
どこまでが機会の保障？

支援することでの公益性は  
どこにあるのか？

斗屋

お町村によってホ助額ちがう  
宿は共通だが、旅費はもってよいのでは。  
あきらめる子は入るのでは。

斗屋

「能力をのばす」  
かをのばすために必要であれば  
それは格別保障である  
あとは財源と優先順位

横江

# =サブセッション=

支えることによる良い面  
支えないことによる悪い面

県内に選手を  
とどめておけない → 県内の強豪はまだ  
権利の保障しきれてない

地域の財産 かんげんをもって  
子どもに夢と希望を与えられる

そもそも強豪校とは、  
コア性 → 31年ぶり  
であつた  
またか

保つ者の質があまえている

国庫とくへると強化するお金ちがう  
地域から応援されるチーム  
社会に分かる  
下の年代から支えがられるような

強豪校とは？

常連ではあるが、  
格差-セフテネット-行政  
強化-専任-モテ校保障  
財源-民間参画

声とひらあがり  
プログラムくんび  
各市の町へ

県内  
沖運と  
そんでな  
とに3との格差

資金造成  
パワーがかかる

強い学校が  
地域にある  
意義

下の世代が  
目指す  
子どもの成長

他の学校  
に広がる  
理解も  
知、7はいい  
あたり前  
のしみへ

目に見えない  
負担ある  
子どもが  
全国で活躍する  
姿みたい

3月  
紹備サッカ-  
全国からトップ  
よび  
つし-モ身近で  
みれる  
強化+体験の保障

県内強豪校が  
あることで人材が  
県外へ流出しない

選択肢  
が県内に

セフテネットとい  
使えるしみへ  
心の支えになるしみへ

輸出県  
サッカー人材  
小→中→高  
県外へ  
スカウト  
年間40~50名出でく

強化指定校  
選択の目安に

県内にも  
選択肢が  
ある中で、県外の  
選択あるとよい  
職員転勤  
のサドルが  
早い(県外へ)  
ハード面  
正手のケラウホと  
兼用

費用対効果  
理解への努力  
行政+民間



Q 支えたいか?

・ 地域の財産に財源に財源が必要

・ 地域の選手層が薄いとgood

・ 夢と希望 与える

・ <sup>トップ</sup>上の層 (強引) ↓ (強引に)

・ 下の層 (楽々) ↓ (楽々)

・ どちらが大事

・ 選手の輸出県にたいてい

・ 県内にとどめたい

・ 7ヶ月前までの活動は

・ 上の子は1人センターに入ると

・ 母1で果外...

・ トップレベルにたどり着く機会が...

⇒ 県内ではまだ強引

・ でモ 機会の保障が...

・ 果外だとリーグ戦

・ 保護者・スカウトの立場

・ 「またな？」という。集まりです。逆金。

・ ニュース性に左右される。

・ 保護者の覚悟に“甘え”でいる。

・ 強引でなくとも果外遠征に行きたい。

・ 強引かあるからこそ目指す子どもたちも出てくる。

・ そもそも“強引”って？

・ 8割以上の保護者の負担。格差がある。

・ 地域とのつながり

・ スポーツで夢を持つ

・ 身近に感じる

・ 強くなるにはお金がかかる

・ 強いと下の年代の子のありがた

・ 選手が果外に流出

・ 学校も地域貢献

・ 応援せれるチーム